

令和5年度平川市空き店舗対策事業補助金交付要綱

(趣旨)

第1 市は、地域及び商業集積地域の活性化を図り、市内の空き店舗へ新たに出店する者を支援するため、予算の範囲内において、平川市空き店舗対策事業補助金（以下「補助金」という。）を交付するものとし、その交付については、平川市補助金等の交付に関する規則（平成18年平川市規則第53号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(定義)

第2 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 商店街団体等とは、次に掲げる団体等をいう。

ア 平川市商工会

イ 市内の商店街を形成する任意の団体

(2) 商業集積地域とは、複数の小売店、サービス業の店舗が集まっている場所をいい、都市計画用途地域において平賀地域では商業地域・近隣商業地域、尾上地域では近隣商業地域、碓ヶ関地域では国道7号沿い（JR碓ヶ関駅交差点から朝霧橋付近交差点）にある地域をいう。

(3) 空き店舗とは、過去に事業の用に供された店舗部分を有している施設で、次のいずれにも該当しないものをいう。

ア 大規模小売店舗立地法（平成10年法律第91号）の対象となる施設内の物件であるもの

イ 住宅部分を有する店舗物件で、店舗部分と住宅部分が明確に分離できないもの

(補助対象事業)

第3 補助金の交付の対象となる空き店舗対策事業は、次の各号のいずれかに該当する事業で、かつ3年以上継続して営業することが見込まれる事業とする。

(1) 商店街団体等から承認を受けた事業

(2) その他、地域又は商業集積地域の活性化に寄与すると市長が認める事業

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、補助対象事業から除くものとする。

(1) 平川市空き店舗対策事業事業者認定の申請以前に着手している事業

(2) 国、県及び市が実施する他の助成制度の対象となる事業

- (3) 建築基準法（昭和25年法律第201号）及びその他の法令に違反する事業
- (4) 平川市暴力団排除措置要綱（平成24年告示第58号）第2条に規定する暴力団又は暴力団員等に該当する者が行う事業
- (5) 政治活動又は宗教活動
- (6) その他市長が不相当と認める事業

（補助金の交付対象者）

第4 補助金の交付対象者は、新たに市内の空き店舗を活用して事業を行う者であつて、次の各号のいずれにも該当しないものをいう。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条に定める営業を行う者
- (2) 中小小売商業振興法（昭和48年法律第101号）第4条第5項に定める連鎖化事業を行う者
- (3) 過去に平川市空き店舗対策事業補助金の交付を受けたことがある者
- (4) 空き店舗所有者、当該所有者の生計同一者若しくは2親等以内の親族又はこれらの者が所属する法人その他の団体
- (5) 当該店舗において1日のうち午前9時から午後7時までの間に概ね3時間以上、かつ1週間のうち5日以上営業できない者
- (6) 住民税等を滞納している者（個人事業主の場合は世帯員全員を含む）
- (7) 当該店舗の借受開始日から1年以内に営業を開始できない者
- (8) 市内で現に営業している店舗から移転することにより、移転前の店舗を空き店舗とする者。ただし、やむを得ないと認める事情があるときはこの限りではない。
- (9) 営業開始日から3年間同じ営業形態で営業できない者

（事業者の認定）

第5 補助金の交付を受けようとする者は、あらかじめ平川市空き店舗事業事業者認定書（様式第1号）に次に掲げる書類を添付のうえ市長に提出し、事業者認定を受けなければならない。

- (1) 店舗の位置図及び店舗内外の写真（改修工事を行う場合は改修前の写真）
- (2) 店舗等の賃貸借契約を証する書類の写し
- (3) 改修工事を行う場合は、改修に係る見積書の写し
- (4) 市内に住所を置く申請者の場合は、住民税等収納状況調査同意書
- (5) 市外に住所又は本社を置く申請者の場合は、個人事業者は申請者及び世帯員全員に係る住民税等の納税証明書、法人は住民税等収納状況調査同意書
- (6) 個人情報提供に関する同意書
- (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める書類

- 2 市長は、前項の申請があったときは、商店街団体等の意見を聴取したうえでこれを審査し、事業者認定の可否を決定するものとする。
- 3 市長は、前項の規定により事業者認定したときは、平川市空き店舗対策事業事業者認定書（様式第2号）により、事業者認定しなかったときは、その旨を記載した書面により通知するものとする。
- 4 市長は、事業者認定者が第4の各号のいずれかに該当すると認めるときは、事業者認定を取り消すことができる。

（営業開始届）

第6 事業者の認定を受けた者が営業を開始した時は、速やかに市へ営業開始届（様式第3号）に次の書類を添付のうえ、提出しなければならない。

- （1）法人の場合は、定款又は登記事項証明書の写し
- （2）個人事業主の場合は、個人事業の開業・廃業等届出書の写し

（補助金額等）

第7 この要綱による補助金の交付対象となる経費（以下「補助対象経費」という。）は、空き店舗の営業開始月以降の賃借料（礼金、敷金及び共益費等は除く。）及び営業開始日前までの店舗改修費（内・外装工事、給排水工事、空調工事、サイン工事及び電気・照明工事等並びに建物と一体となって機能する設備（商品陳列棚、店舗看板等で改装工事により建物に固定されるものを含む。））とし、次に掲げる金額とする。ただし、消費税は補助対象経費としない。

- （1）賃借料補助額は、営業開始月から起算した12か月分の賃借料の3分の2以内とする。ただし、1月で5万円、年額で60万円を限度とする。
 - （2）改修費補助額は、事業者認定日から営業開始日前までの店舗改修費の2分の1以内とする。ただし、商業集積地域にあつては100万円、その他の地域においては50万円を限度とする。
- 2 前項の規定により算出された補助金額に千円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てる。

（事業内容の変更）

第8 第5第3項の規定による事業者の認定を受けた者が、事業内容の変更又は中止をする場合は、平川市空き店舗対策事業補助金変更（中止）承認申請書（様式第4号）を市長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 市長は、前項の変更申請書を受理し、その内容を承認したときは、平川市空き店舗対策事業補助金変更（中止）承認通知書（様式第5号）により申請者に通知するものとする。

(補助金の交付申請等)

第9 補助金の交付の申請をしようとする者は、営業開始後12か月を経過した後に、平川市空き店舗対策事業補助金交付申請書兼実績報告書(様式第6号)を市長に提出しなければならない。

2 交付申請に添付する書類は、次に掲げる書類とする。

- (1) 申請日の直近の店舗内外の写真
- (2) 営業開始月以降の家賃の支払いを証明する書類の写し
- (3) 事業者認定日から営業開始日前の店舗改修等に係る領収書又は支払いを証明する書類の写し
- (4) 直近の確定申告書類の写し(収受日が確認できるもの又はe-Taxの受信通知があるものに限る)
- (5) 市内に住所を置く申請者の場合は、住民税等収納状況調査同意書
- (6) 市外に住所又は本社を置く申請者の場合は、個人事業者は申請者及び世帯員全員に係る住民税等の納税証明書、法人は住民税等収納状況調査同意書
- (7) 事業に関連する各種営業許可証等の写し
- (8) その他市長が必要と認めるもの

(補助金の交付決定等)

第10 市長は、前条の規定に基づく申請内容を審査し適当と認めた場合は、平川市空き店舗対策事業補助金交付決定兼交付額確定通知書(様式第7号)により通知するものとする。

(補助金の請求)

第11 補助金の交付を受けようとする者は、前条の規定による補助金額の確定通知を受けた後に、平川市空き店舗対策事業補助金請求書(様式第8号)を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第12 市長は、補助金の交付を受けた者が次のいずれかに該当するときは、事業者に既に支給した金額の全額又は一部の返還を求めることができる。ただし、やむを得ないと認める事情があるときはこの限りではない。

- (1) 虚偽又は不正の申請により支給を受けたとき 全額返還
- (2) 開業後3年を経過しないうちに営業を中止、閉店、移転又は営業形態を変更したとき 一部返還

(事業協力)

第13 補助金の交付を受けた者は、出店地域を管轄する商店街団体等に加入するものとし、団体が実施する事業に積極的に協力するよう努めるものとする。

(帳簿及び関係書類の整理・保管)

第14 補助金の交付を受けた者は、収支に関する帳簿を備え、領収書等関係書類を整理するとともに、これらの帳簿及び書類を、補助事業が完了した年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

附 則

この要綱は、令和5年 4月 1日から施行する。

この要綱は、令和5年 7月27日から施行する。